

## 関連文化財群

『豊川市文化財保存活用地域計画』では、市域に点在する様々な文化財を地域の歴史文化の特性と関連付け、一定のまとまりとして捉えた6つの関連文化財群を設定しています。小坂井中学校区域の関連文化財群は下記のとおりです。

### 関連文化財群① 本宮山や豊川を始めとした自然環境と風土

ストーリー	豊川下流域には氾濫作用で発達した肥沃な沖積低地が広がり、河口部には自然環境との共生を物語る貝塚がつけられました。弥生時代には、豊川低地で水田稲作が始められ、右岸の河岸段丘崖に連なる湧水地には菟足神社や五社稲荷社が建立されています。		
関連文化財群の主な構成要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;市&gt;菟足神社貝塚</li> <li>&lt;市&gt;柏木浜</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;市&gt;平井稲荷山貝塚・平井遺跡</li> <li>欠山遺跡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>篠束遺跡出土木製品（一括）</li> <li>五社稲荷社の境内林</li> </ul>

### 関連文化財群② 数多く築造された多彩な古墳

ストーリー	数こそ多くはありませんが、河岸段丘上には古墳が点在しています。なかでも五社稲荷古墳は、現在では円墳と考えられていますが、かつては前方後円墳とされていたこともあり、地域においてその位置付けが注目されます。また、これらの古墳は江戸時代の地誌にも記され、広く知られてきました。		
関連文化財群の主な構成要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;市&gt;五社稲荷古墳</li> <li>&lt;市&gt;糟塚古墳</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;市&gt;観音山古墳</li> </ul>	

### 関連文化財群③ 市域で形成された大江定基伝承

ストーリー	平安時代中期に三河国司であった大江定基 <small>おおえのさだもと</small> について、『今昔物語集』などには妻の死と風祭での猪を生贄とする様子を見たことが出家の契機となったという説話があります。この風祭は、現在も続く菟足神社の風祭りであると伝えられています。		
関連文化財群の主な構成要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;市&gt;菟足神社の風祭り</li> </ul>		

### 関連文化財群④ 近世東海道を中心とした街道交通

ストーリー	江戸時代には、東西を結ぶ東海道と伊那街道・平坂街道の結節点として栄えていました。伊那街道は、鳳来寺・善光寺参詣や信濃山間部と三河湾沿岸部を結ぶ道として、塩などの重要な物資の輸送路でもありました。		
関連文化財群の主な構成要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>菟足神社西参道石鳥居</li> <li>芭蕉句碑「唐がらし」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伊奈立場茶屋跡</li> <li>中村家住宅主屋</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東海道一里塚跡（伊奈）</li> </ul>

### 関連文化財群⑤ 戦国時代から江戸時代までの支配の変遷を物語る文化財

ストーリー	戦国時代、地域では牧野氏・本田（多）氏・西郷氏などが台頭しましたが、後に今川氏、ついで松平（徳川）氏の領国支配に組み込まれました。本田（多）氏の後裔は膳所藩（滋賀県）主となって幕末を迎えますが、東漸寺をはじめとする故地とのつながりは途絶えることはありませんでした。		
関連文化財群の主な構成要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>糟塚砦跡</li> <li>松風碑</li> <li>伊奈城跡（伊奈城趾公園）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>花ヶ池（花ヶ池公園）</li> <li>伊奈本多家五代の墓所・伊奈城之図</li> <li>本多家の面頬・若宮八幡社のイヌマキ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お松見</li> <li>舞々辻</li> </ul>

## 様々な取組主体

### 伊奈史跡保存会

伊奈城趾・花ヶ池公園の清掃や美化作業、見学者へのガイド活動を行っています。

### 小坂井区

菟足神社貝塚公園の清掃及び美化作業を行っています。

### ⑤<市>伊奈城跡



小学生の見学の様子

### ⑦伊奈銅鐸



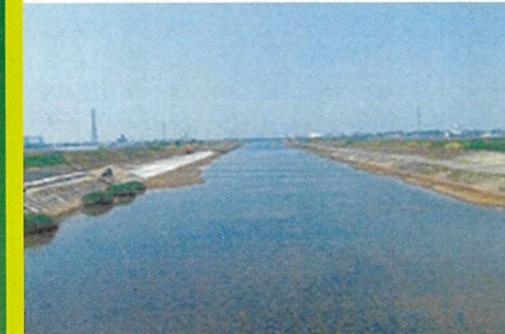
伊奈銅鐸発見時の写真

### ⑫菟足神社



<市>菟足神社の風祭り

### 豊川放水路



# 豊川市文化財保存活用地域計画

## 【小坂井中学校区】

令和7年 豊川市

## 自然的・地理的環境

小坂井中学校区は、豊川市の南部に位置し、南で豊橋市と接しています。区域内の地形は全般に平坦ながら、市街地がある小坂井台地と、その崖下に広がる沖積低地の二面がみられます。

現在では国道1号が区域を貫き、国道151号・247号がそれに繋がっていますが、これは江戸時代から東海道と伊那街道（信州街道）・平坂街道の結節点であったことを引き継ぐものです。鉄道網もJR東海道線・JR飯田線、名鉄名古屋本線の三路線が集結し、それぞれに駅が設置されています。

## 歴史的環境

豊川河口付近の河岸段丘上には、縄文時代から生活の痕跡が認められますが、中でも晩期の貝塚は明治の頃から注目を集め、全国的にも知られています。弥生時代の集落遺跡には沖積低地に立地するものもあり、その後の古墳築造も含めて各時代の遺跡が密集しています。

奈良時代の木簡に「篠束郷」が記され、平安時代に書かれた『和名抄』には「度津郷」もみられ、現在まで地名として引き継がれています。

戦国時代には豊川流域を抑えた牧野氏、伊奈城を本拠地とした本田（多）氏、篠束を支配した西郷氏などが台頭しましたが、やがて今川氏に取り込まれ、後には松平（徳川）家康の領地となりました。

江戸時代には東海道をはじめとした交通の結節点として栄え、明治の頃には養蚕や海苔養殖が盛んとなりました。

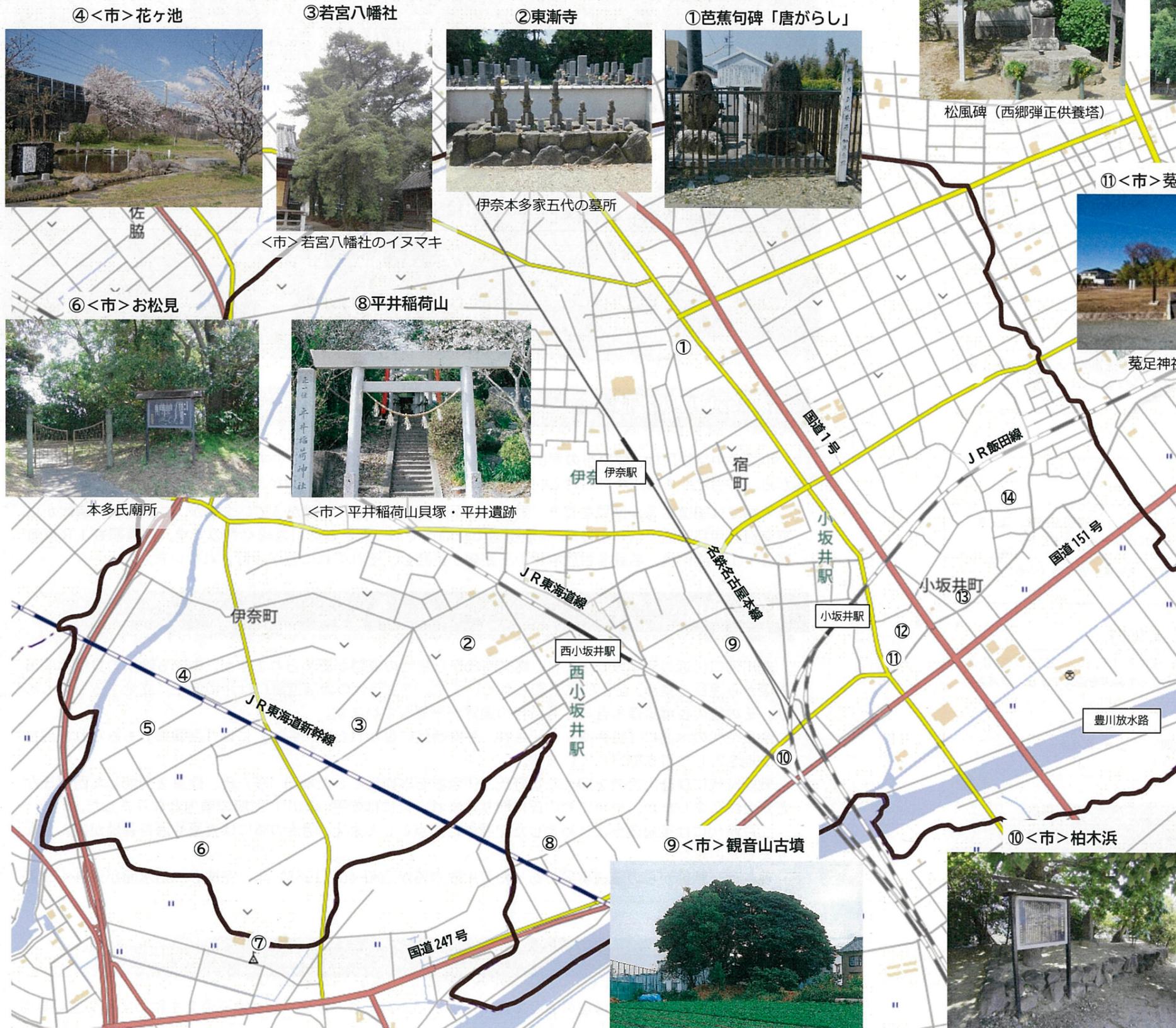
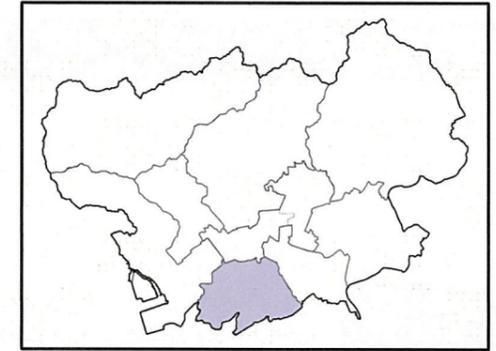
現在は、戦前からの継続事業であった豊川放水路が昭和40（1965）年に完成し、治水面積が大きく改善されています。

## 歴史文化の特性

豊川がつくり出す自然環境のもとで古くから生活が営まれ、近世以降は東海道を主軸とする交通の要衝として発展してきた地域といえます。

# 文化財の概要

校区の指定文化財等は、31件です。社寺が所有する美術工芸品や遺跡などです。小坂井町史誌や既存の文化財関連調査、市民を対象に実施したアンケート調査から把握した未指定文化財（歴史文化資源）は、45件あります。



種別		国指定等	県指定	市指定	合計	未指定文化財等	
有形文化財	建造物	1	0	2	3	2	
	美術工芸品	絵画	0	0	0	0	0
		彫刻	0	0	0	0	0
		工芸品	0	1	2	3	1
		書跡・典籍	1	0	5	6	0
		古文書	0	0	0	0	3
		考古資料	0	0	0	0	2
	歴史資料	0	0	4	4	0	
小計	2	1	13	16	8		
無形文化財		0	0	0	0	1	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	1	1	2	2	
	無形の民俗文化財	0	1	1	2	0	
	小計	0	2	2	4	2	
記念物	遺跡	0	0	9	9	13	
	名勝地	0	0	0	0	0	
	動物・植物・地質鉱物	0	0	2	2	19	
	小計	0	0	11	11	32	
文化的景観		0	-	-	0	0	
伝統的建造物群		0	-	-	0	0	
その他 (市独自の設定)	史話と伝承	-	-	-	-	2	
	工廠遺産	-	-	-	-	0	
合計		2	3	26	31	45	